

研究者・技術者のための文書作成・プレゼンメソッド

日本評論社 254頁 2018年 定価2,200円+税 ISBN978-4-535-78849-7

本書の著者である池川隆司氏とは、文部科学省 理工系プロフェッショナル教育推進委託事業「工学分野における理工系人材育成のあり方に関する調査研究」に関するシンポジウムでの合宿会議で、二度にわたり熱く議論した思い出がある。著者は、大手通信会社での研究者・システム開発マネージャー・産学連携コーディネーター、さまざまな大学での客員教授・非常勤講師を含む、豊富で多種多様な職務経験を有している。多彩なキャリアや実務経験に基づく適格な指摘には感銘を受けた次第である。本書は、著者の豊富な実務経験に基づく技法・ノウハウ・経験知が惜しむことなく披露されており、類似する実用書・教科書とは一線を画している良書と言ってよいだろう。

本書が対象としている技術文書は、1) 学会発表予稿・学術論文・特許明細書のような科学技術文書、2) 電子メール・議事録・報告書のような定型業務で作成する技術系文書、3) 学会発表（プレゼン）のためのスライド集である。これらの技術文書の読み手、作成目的、基本構成は、非常に多様である。著者は、この多様性をもつ技術文書の作成技法を、情報システムの開発で用いられるウォーターフォール手法をモデルとし「読み手の要件定義と文書作成指針の立案→文書作成計画の立案→情報収集→執筆→推敲→提出→広報・維持管理」という、文章作成へ工学手法を応用するアイデアを提示し、論理的にかつ平易に解説することに成功した、理工系人材に向けた「技術文書作成ハンドブック」である。

筆者によれば、技術文書の品質に大きく寄与するのは、情報システム開発と同様、最上流工程である「読み手の要件定義」と「それから導かれる作成指針の立案」である。このため、最上流工程の「読み手の要件と作成指針」を、技術文書の特性に応じ多数の事例を使って、丁寧に解説している。これは、文章を書くことに若干でも苦手意識のある、特に理工系の若手には朗報であろう。

たとえば、学会発表予稿の場合の「読み手の要件定

義」では、「読み手は多数の講演から聴講すべき講演を峻別しなければならない。」さらに、「なぜその研究を行ったのか、研究の成果は何か」という点に興味をもつ。このような分析を基に「予稿の核心である序論には社会的動向、先行研究とその課題、主張点である課題の解決方法を簡潔に記載すること」、「表題、図表、序論の作成に力を注ぐこと」という学会発表予稿の作成指針を導出している。

一方、学会発表の聞き手は、限られた発表時間で、研究の背景と成果の本質を知りたい。著者は、この聞き手の要件から「研究の背景、発表の目的を最初に丁寧に説明し、研究の内容はポイントだけに絞る」という、プレゼンにおけるスライドの作成指針を説いている。

「メールを使って、外出中の上司にトラブルを報告する例」も同様のアプローチを採る。「外出中の上司は、会議などの合間でメールを読む。そのためスマートフォン画面を何度もスクロールしてメール全文を読む余裕はない。このため、外出時の上司へのメール作成指針として、伝えたい内容をスマートフォンの1～2画面に簡潔に収めることの重要性を強調している。メール本文の構成については、1) 主題文と呼ぶ主張点を記載した文を、メール本文の先頭に置くこと、2) 主題文の後に、主張点を詳細に説明する文を続けること、3) 上司が正しく判断や意思決定するために「事実と意見」を明確に区別しなければならないことなどが力説されている。

実務マネージャーや教員など、人と人の高いコミュニケーション能力が求められる職種の読者にとっては、人と人の信頼を獲得する基本的なコミュニケーションのテクニックを、技術文書作成と絡めて丁寧に説明していることが嬉しいのではないか。相手の立場を尊重した自己表現（アサーション）や怒りの制御（アンガーマネジメント）のような具体的なテクニックについての知識は極めて効果的であろう。

OR学会会員にとって嬉しいのは、「技術経営」に関わる技術文書を随所に盛り込まれていることである

う。OR学会会員にとって有益な、職務発明・著作を含む知的財産権、オープンイノベーション、発明の秘匿化戦略、ソフトウェア特許、仮説立案検証手順のような情報や考え方を平易に解説している。

本書は、現在165の大学図書館に蔵書されていること¹や「2019年人文書ベストセクション第二回（考える力を養おう）」の一冊として認められている²よ

うに、教育界に高く評価されている。「技術文書、プレゼン」をキーワードとしてネット検索すると、1,000件以上の書籍がヒットする中で、OR学会の会員諸氏には手元に置く指南書として強く本書を薦めたい。

藤野直明 ((株)野村総合研究所)

¹ <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BB25847919>

² http://kw.maruzen.co.jp/nfc/featurePage.html?requestUrl=jinbun_bestselection/02/

機関誌投稿論文区分変更のお知らせ

機関誌「オペレーションズ・リサーチ」では、OR事例を研究論文の形にまとめた投稿論文を募集しています。この投稿論文の区分を、「事例研究 [論文]」と「事例研究 [レター]」と改定しました。オペレーションズ・リサーチとマネジメント・サイエンスの分野に関連した実際の事例について、実施にあたっての工夫や問題点の分析などをその内容として想定しております。査読において、「事例研究 [論文]」では適用対象、適用方法に新規性、有用性があることを評価します。「事例研究 [レター]」では新規性や独創性は必ずしも問わず、オペレーションズ・リサーチやマネジメント・サイエンスの価値、有用性を伝える内容を積極的に評価します。オペレーションズ・リサーチの応用事例の情報発信の場として、ぜひご活用ください。

詳細は学会web (HOME>機関誌>投稿のお勧め・投稿規程)

<http://www.orsj.or.jp/submit/csubmit.html>

を御覧ください。

なお、これまでの投稿論文区分である「論文・研究レポート」は経過措置として2020年6月末日まで投稿を受け付けます。